

# 主要事業評価シート(第2次実施計画/R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	生活文化部
	19012	亀山7座トレイル整備・活用推進事業	課名	地域観光課 観光交流G
	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上	財務科目	01:一般会計
	基本施策	04:まちづくり観光の推進	款	07:商工費
	施策の方向	02:観光地の魅力づくり	項	01:商工費
戦略プロジェクト	04:「ジモトノココロ」プロジェクト	目	03:観光費	
事業予定期間	R 1 ~ R 3 年度		主な根拠法令要綱等	

目的・概要	対象	市民、トレッキング・サイクリング愛好者
	目的	本市が有する山、とりわけ市域を代表する7つの山々をつなぐ「亀山7座トレイル」の整備・活用を関係団体と協働で行い、広く周知することで、市の新たな観光資源としての価値を見出し、市民をはじめ、トレッキングやサイクリング等の愛好家に本市の豊かな自然環境に触れていただくとともに、本市への愛着醸成や知名度向上につなげる。
概要		「亀山7座トレイル」登山道活用ネットワークの協力を得て、登山道の整備を進めるとともに、PR活動や登山教室などの活用イベントを開催する。また、中核的な拠点となるビジターセンターの整備や山の起伏を生かしたサイクリングルートの開発も進め、本市のエコツーリズムを確立する。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	亀山7座トレイルの整備 ・登山専門指導員の配置 ・現地調査、登山道維持補修 (登山道活用ネットワークとの協働) 周知啓発活動 イベントの開催 ・登山教室等 拠点施設の整備 ・ビジターセンターの整備	亀山7座トレイルの整備 ・登山専門指導員の配置 ・現地調査、登山道維持補修 (登山道活用ネットワークとの協働) 周知啓発活動 イベントの開催 ・登山教室等 拠点施設の運用 ・ビジターセンター展示物の充実	亀山7座トレイルの整備 ・登山専門指導員の配置 ・現地調査、登山道維持補修 (登山道活用ネットワークとの協働) 周知啓発活動 イベントの開催 ・登山教室、サイクリングイベント等 拠点施設の運用 ・ビジターセンター展示物の充実 ○登山競技大会の開催支援	
	年度実績	○亀山7座トレイルの整備 登山道調査及 応急修繕、アクセス道路修繕2回実施、道 標等安全対策整備34か所等 ○周知啓発活動 パンフレット作製及びFIX MY STREETの導入 ○イベントの開催 初心者登山講座1回、 登山イベント2回実施 ○拠点整備 石水溪キャンプ場施設研修 棟にエアコン設置、テレビ・ビデオ購入	○亀山7座トレイルの整備 登山道調査及 応急修繕58回、登山道ボランティア作業4 回 ○周知啓発活動 トレイルマップ3000部作製 ○FIX MY STREETと地図情報システムの 連携 ○イベントの開催 登山講座2回、登山イ ベント11回実施 約180名参加 ○登山ポスト 野登山登山口1か所追加(計 3か所)		
事業の計画・実績	計画額	事業費	3,600千円	3,000千円	4,300千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	3,420千円	3,100千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	3,350千円	3,068千円	
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
人件費	総人件費	2,355千円	2,352千円	0千円	
	一般職員	2,355千円	2,352千円	0千円	
	所要人員	0.30	0.30		
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
	総コスト(+)	5,705千円	5,420千円	0千円	
受益者負担率	0.0%	0.0%	0.0%		

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	仙ヶ岳入山者数	計画値 50	60	70
		登山ポスト回収数	実績値 124	246	
			単位 人	人	人
	名称	登山講演会の開催	計画値 2	3	4
		初心者登山導入講座、登山講演会、山岳ガイドトレッキングツアーなどの開催	実績値 3	13	
			単位 回	回	回
名称		計画値			
		実績値			
		単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 鈴鹿川源流の森づくり協議会、キャンプ場施設事業者、個別の活動団体等と連携し、それぞれの特性を活かしながら協働してエコツーリズムを進めていく。他の先進地事例を学ぶことも大切であるが、まずは協働による登山イベント等を実施し試行錯誤しながら発展させていきたい。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 民間キャンプ事業者と協働し、キャンプと併せてトレッキングイベントを通じて既存観光地へ誘導を図る企画を行い、エコツーリズムの進展に取り組んだ。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 現地調査及び登山道修繕、道標、ルートテープ等の整備を58回行い、新規ルートを加えた亀山7座トレイルマップを作製した。また、講習会やトレッキングイベントを13回開催し、鈴鹿川等源流域の自然の素晴らしさをPRした。 FIX MY STREETと地図情報システムとの連動を図り、投稿された内容が地図情報システムにリアルタイムで反映できるものとし、情報提供の充実を図った。安全登山の対策のため、登山ポストを新たに一か所設置し計三か所で投函できるよう利便性を図った。 歴史博物館が調査を進めている故尾崎隆氏のパネル及び遺品展を、登山講習会と併せて実施した。	B  まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 トレッキングイベントで県内限定のイベントを2回開催した。募集方法は広報のほかインターネットを通じて行ったが、いずれも定員を満たすことができ、亀山7座トレイルの知名度は浸透しつつあると思われる。民間事業者との連携は雨天による中止となったが、今後も継続して実施する旨合意しており、エコツーリズムの進展が期待できる。トレイルイベントに参加した市民もイベントごとにリピートいただいております。亀山7座ガイドなど、新たな活動主体となる可能性がある。	B  まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 エコツーリズムを総合的に発展させていくための仕組みを提案し、エコツーリズムから既存の観光地への訪問につながる取組が必要である。	今後の方向性  <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 鈴鹿川源流の森づくり協議会、キャンプ場施設事業者、個別の活動団体等と連携し、それぞれの特性を活かしながら協働してエコツーリズムを進めていく。まずは民間事業者と協働によるトレッキングイベント等を実施し試行錯誤しながら発展させていきたい。また、コロナ禍の中で、亀山7座トレイルを中心とする自然観光の人気は底堅いものがあり、当面は観光の主軸として位置づけしていきたい。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 亀山7座トレイルを中心とするエコツーリズムの発信により、これまで違う訪問客層が既存の観光地に訪れることになり、新たなにぎわいと交流が生まれる。	
対応時期		令和3年度	

【1次評価者】	生活文化部 地域観光課 観光交流グループリーダー 木田博人
【最終評価者】	生活文化部 地域観光課長 木田博人

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動			B	B	
	成果			B	B	

令和2年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		3,100 千円
内訳	令和元年度からの繰越額	千円
	令和2年度の最終予算額	3,100 千円
	令和3年度への繰越額	千円